

Dr. wasshii  
ドクターワッシーの  
認知症  
よもやま話

【第4回】

新しい  
検査法



ワッシーのような歳になると、  
少しくらい曖昧あいまいなことがあっても  
気にならなくなる。が、若い人た  
ちは、白黒はつきりつけたがる。

忘れなどしないと言い張る。でも、  
医者なら誰が診ても認知症だ。し  
かし、25歳になる孫娘は、なぜか  
納得しない。偶然だろうが、同じ

ドβにくつつきやすい物質を目印  
にした診断薬を使ってPET検査  
をする。すると、アミロイドβ沈  
着の状況が手に取るように画像と  
して見ることができると。  
日本でも、2014(平成26)年  
に利用できるようになり、今では、  
実際にアミロイドPETで認知症  
の診断ができる施設もある。

間に針を刺して脊髄液せきずいを採らなけ  
ればならない。ちよっと痛い。  
だから、ここで、よく考えてみ  
てほしい。K子さんのケース。た  
だただ検査で白黒つけたいという  
家族の希望は優先されるべきだろ  
うか。認知症の診断がついて数年  
も経つM男さんに、検査をして改  
めてアルツハイマー型認知症と診  
断する意義はあるのだろうか。

## 難点があることも知っておいて

それも悪くはないが、知識がイン  
ターネットからのよく咀嚼そしやうされて  
いないものだったら、医者は、ホ  
ント困ってしまう。

ような時に、「センセ。最近、P  
ET(陽電子放射断層撮影法)で認  
知症かどうか分かるようになった  
らしい。紹介状書いてほしい」と  
一方的だ。

アルツハイマー病では、髄液アミ  
ロイドβは低下し、リン酸化タウ  
は上昇することが知られている。

### 保険が使えない

だが、これらの新検査法にも、  
いくつかの難点がある。現段階で

（石黒修三 医療法人社団いし  
ぐるクリニック理事長）  
アミロイドPETや髄液バイオ  
マーカー測定は、まずは、認知症  
の鑑別診断や若年性認知症の診断  
に使われるべきものである。検査  
するかどうか、医者とよく相談  
して決めてほしいものである。

### 日本は2014年から

68歳のK子さんは、1年前に、  
クリニクへ連れてこられた。だ  
が、もの忘れは年齢相応で、この  
半年は良くなってきている。K子  
さんは認知症ではないようだと言  
明するが、38歳の息子さんは不満  
げだ。

最近、アルツハイマー型認知症  
の診断法は格別に進歩した。アル  
ツハイマー病というのは、アミロ  
イドβたんぱく蛋白の沈着が神経を変性さ  
せるために起きる。そのアミロイ

は、アミロイドPETをするのに、  
保険が使えない。従って、PET  
の検査は私費になる。PETは高  
くて手が出ないというなら、髄液  
検査になる。だが、これも腰骨の



80歳のM男さん。自分は、もの